

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 7月26日更新

事務事業名		原水(取水)及び配水施設維持管理事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2	緑豊かな環境と共生するまちづくり			所属部	水道局	課長名	水野 孝春
	施策	9	住環境の充実			所属課	上下水道課	担当者名	高岡英之、田中良知
	基本事業	24	水の安定供給			所属班	管理工務班	(内線)	1157
予算科目		会計企業	款	項	目	事業連番	法令根拠	地方公営企業法、水道法、合志市水道事業給水条例	成果優先度評価結果 : ⑧ コスト削減優先度評価結果 : ー
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	水道事業及び簡易水道事業の基幹施設である配水池施設(13箇所)及び水源施設(25箇所)を適切に運転し維持管理することにより、水道水を安定的に供給する事業である。昭和37年度から、近代水道を計画的に整備し清浄にして豊富かつ低廉な水の供給を図り、公衆衛生の向上と生活環境を改善するために事業を開始した。水道水を供給するための地下水の取水量は、H21年度(6,400千㎡)、H22年度(6,541千㎡)、H23年度(6,600千㎡)と推移し、使用者へ配水する配水量は、平成21年度(5,866千㎡)、H22年度(6,319千㎡)、H23年度(6,500千㎡)と増加、一方、水道料金として算定した有収水量は、平成21年度(5,364千㎡)、H22年度(5,394千㎡)、H23年度(5,455千㎡)と増加傾向にある。配水池施設及び水源施設とも、永年の使用により老朽化が著しく、機器の故障や配線・計器類の劣化による不具合などが顕著に表れている。
【業務の流れ】	①配水池施設及び水源施設の職員による維持運転(動力費等支払)、及び定期的な点検、管理を行なう(職員直営+外部委託)。②配水池及び水源施設の故障及び不具合に対し、早急かつ適切な補修、修繕を行なう(契約、監督、検査等の事務)。③法令に基づき、配水の水質及び取水の原水水質について、外部専門機関に委託し定期的に水質検査及び指標値検査を実施する(契約事務、監督、成果納品検査事務)。また、各配水池ごとの塩素濃度等の毎日検査を行なう(検査員に依頼)。④水道事業に携わる職員の検便検査を実施する。⑤水道法の規定に基づく衛生上必要な措置のため、年間を通じて安定的に塩素剤を調達し、水源施設において原水と混合し基準に適合した塩素殺菌効果を発揮させるための施設管理を行なう(委託契約、監視、保守)。
【主な予算費目】	営業費用 原水及び浄水費 (委託料、手数料、修繕費、動力費、薬品費)
【意見や要望】	関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 水道利用者の水質に関する意識が高まっており、個別の水質調査依頼の要望が数件あっている。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)	25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
配水池施設(13箇所)及び原水(取水)施設(25箇所)の機能を保持し適切に運転できるよう維持管理を行なった(電気設備、機械設備ほか、各種補修対応等)。特に専門的な保守及び点検が必要な設備(電気計装、取水ポンプ、非常用発電機等)について、3~4箇所の配水池施設等を選定し年間を通じて保守点検業務を依頼し実施した。その他「業務の流れ」のとおりに	前年度実績のとおりに特に専門的な保守及び点検が必要な設備(電気計装、取水ポンプ、非常用発電機等)について、施設等を選定し年間を通じて保守点検業務を実施する。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ア 配水池及び原水(取水)施設の点検回数	回	
→イ		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	②対象指標(対象の大きさを表す指標)	(単位)
配水池及び原水(取水)施設	→ア 配水池施設数	箇所
	→イ 原水(取水)施設数	箇所
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)	(単位)
・機能が保持される。 ・安定した運転ができる。	→ア 設備の事故等により断水した件数	件
	→イ	
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
設備の事故等により断水した件数の発生をみることで、配水池及び原水(取水)施設の機能が保たれ安定した運転ができていのかどうかを判断できると考えた。		0

(2)各指標・総事業費 の推移				単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
① 活動指標	ア	回		18	23	12	18	12	12	12	12	12
	イ											
② 対象指標	ア	箇所		13	13	13	13	13	14	14	14	14
	イ	箇所		24	24	24	24	24	25	25	25	25
③ 成果指標	ア	件		0	1	3	2	3	3	3	3	3
	イ											
投資 入費 量	事業 内訳	財源	国庫支出金	千円								
			都道府県支出金	千円								
			地方債	千円								
			その他	千円	72,127	81,580	90,693	88,644	90,693	90,700	90,700	90,700
			繰入金	千円								
			一般財源	千円								
		(A) 事業費計	千円	72,127	81,580	90,693	88,644	90,693	90,700	90,700	90,700	90,700
		(A)のうち指定経費	千円	148	0	795	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	148	0	795	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	6	8	7	7	7	7	7	7	7
		延べ業務時間	時間	1,560	1,620	1,250	1,480	1,250	1,200	1,200	1,200	1,200
		(B)人件費計	千円	6,427	6,541	5,047	6,025	5,047	4,845	4,845	4,845	4,845
トータルコスト(A)+(B)			千円	78,554	88,121	95,740	94,669	95,740	95,545	95,545	95,545	

事務事業名	原水(取水)及び配水施設維持管理事業	所属部	水道局	所属課	上下水道課
-------	--------------------	-----	-----	-----	-------

2 評価の部 (SEE)

*原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☒ 達成した 目標値である13箇所の配水池及び25箇所の水源地施設に対し、事故等による断水を年に3件以内に留めるよう設定した。実績では落雷災害による取水ポンプ故障・配電盤故障(竹迫配水池・弁天配水池)が発生し断水した2件に留めることができ、目標を達成した。	☐ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 老朽化による設備の劣化は進んでいるが、専門機関への保守点検業務委託による事前監視を強化することで、目標達成の見込みはある。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 事故等による断水がおきないように、現状を保持する事業であり、成果向上の余地は少ない。	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 配水池及び原水(取水)施設は、水道事業特有の施設であり、統廃合及び連携はできない。	☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 最小限の事業費で維持管理を行っており、削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 現時点においても、施設を維持管理するための担当は兼務で業務に当たっており、必要最小限であるため、削減の余地はない。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 すべての水道使用者に受益機会があり公平・公正である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 第三者に業務を委託することを検討する余地はあるが、使用者にとって真に信頼できる水道事業であり続ける必要があり、部分的な業務委託を含め、現時点で移行することはできない。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

自然災害(落雷)による故障で断水が起きたが、今後さらに自然災害時の対応の体制の整備及び予防対策に力を入れ安定的な水の供給に取り組む。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可					(2) 改革・改善による期待成果 （廃止・休止の場合は記入不要）																									
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善（有効性改善） ☐ 事業のやり方改善（効率性改善） ☐ 事業のやり方改善（公平性改善） ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）																														
老朽化による設備の劣化は進んでいるが、専門機関への保守点検業務委託による事前監視を強化し、不具合の早期補修等に取り組むことで、目標達成をめざす。					<table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>							コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
							コスト																							
							削減	維持	増加																					
					成果	向上																								
維持		○																												
低下																														

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

コスト維持・成果維持をめざすが、施設の老朽化はさらに進むことが懸念される。計画的な改築及び更新と連携することにより、安定的な水の供給に努める。